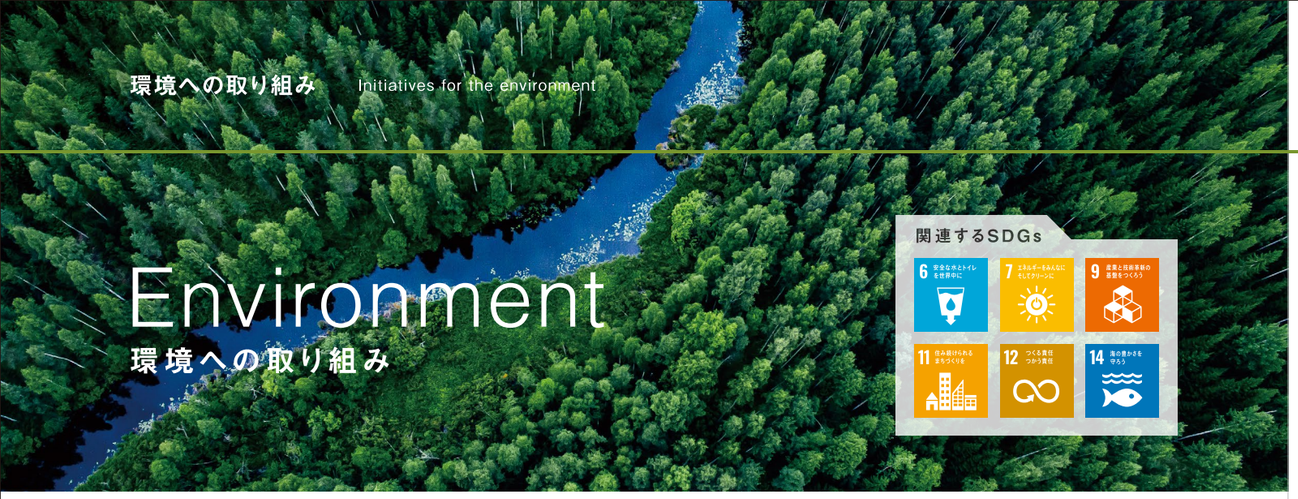


Environment
環境への取り組み

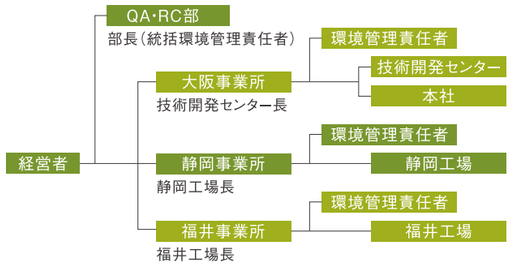
関連するSDGs

環境マネジメント体制

当社は、品質マネジメントシステムとして国際規格であるISO 14001の認証を大阪事業所、静岡事業所および福井事業所で取得しています。当社の企業理念、行動指針、全社方針（レスポンシブル・ケア方針、環境方針）に基づき、環境保全についての基本方針、および活動の基本事項を定めることにより環境保全に関する活動を総合的かつ計画的に推進し、合理的かつ円滑な事業所運営を行っています。

● 環境マネジメント体制図

全社環境業務組織図



環境方針

当社は、事業活動のあらゆる段階において、継続的な環境汚染の防止とともに環境保護に取り組み、全てのステークホルダーとの信頼関係を構築し、持続可能な社会づくりを目指します。

❶事業活動に関連する法律、同意するその他の要求事項や協定等を順守します。
❷製品の開発から廃棄に至る各段階において、環境影響を認識し、環境汚染の防止を推進し、継続的な改善活動に取り組みます。
❸環境保護活動として、省エネルギー・省資源に取り組むとともに、温室効果ガスの発生を抑制し、資源の再使用、再利用を推進し、地球環境と事業活動との調和を図ります。
❹適切な化学物質の取り扱いや事業活動の改善による環境負荷物質の低減、廃棄物の削減を図ります。
❺この環境方針を達成するために環境目標を設定・レビューし、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
❻この環境方針は、全社員に伝達し理解させるとともに、必要に応じて利害関係者へ公表します。

レスポンシブル・ケア方針

レスポンシブル・ケア活動とは、化学品を取り扱う企業が、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、環境・健康・安全を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動です。当社では、化学物質を製造し、取り扱う事業者として、自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、廃棄に至る全ての過程において「環境・安全」を確保することを経営方針において公約し、安全・健康・環境面の対策を実行し改善を図っていく「レスポンシブル・ケア方針」を2005年4月1日に制定しました。持続可能な社会づくりを目指し、現在では「品質」を加えた、「環境」「品質」「安全」を3つの柱として事業活動を行っています。

❶製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクルにわたって、環境保護と環境負荷の軽減に努めます。
❷「安全第一」を基本とし、無事故、無災害を目指し、安全操業に努め、社員と社会の安全を確保します。
❸取り扱う化学物質の安全性を確認し、社員、物流関係者、顧客など全てのステークホルダーへの安全・環境・健康に配慮します。
❹顧客が満足し、信頼される品質の製品とサービスを安定的に提供します。
❺安全、環境、品質に関する法律および当社が同意するその他の要求事項を順守するとともに、社会とのコミュニケーションを図り、信頼の向上に努めます。

マテリアルフロー

当社の2022年のマテリアルフローは以下になります。エネルギー、用水、原料等のインプットおよび環境排出物、製品等のアウトプットを示しています。

INPUT

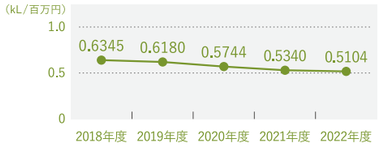
エネルギー	電気	18,567千 kWh
	都市ガス	280千 m³
	A重油	2,097 kL
	LPG	329 t
	原油換算	7,549 kL
用水		527.4千 m³
原料		

工場

OUTPUT

水域排出量	排水量		592.1千 m³
	BOD総量		8.7 t
	SS総量		12.7 t
	PRTR物質	水域	0.03 t
		下水	0.19 t
大気排出量	CO_2排出量		23,960 tCO_2
	PRTR物質	大気	12.0 t
産業廃棄物	総量		15,055.1 t
	内 社外排出量		2,611.2 t
	内 社内処分量		12,443.9 t
PRTR物質	事業所外移動量		173.5 t
製品			

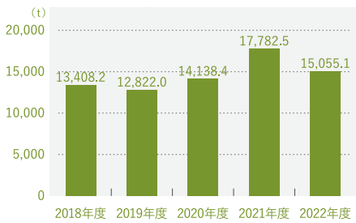
● エネルギー使用量（原単位）



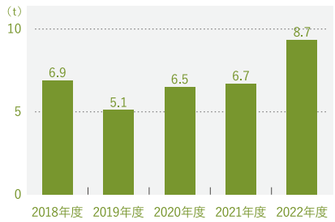
● エネルギー使用量（消費量原油換算）

● 温室効果ガス排出量（エネルギー起源）

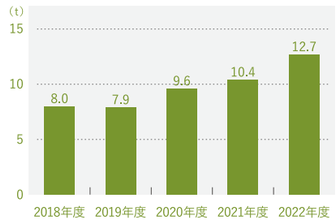
● 産業廃棄物排出量



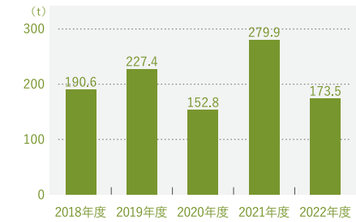
● BOD負荷量



● SS負荷量



● PRTR移動量



VOICEインタビュー

静岡工場
管理課
大森 裕史

環境管理について

2023年度より生産部門から環境管理の部門に配属となりました。環境管理部門では排水や廃棄物の処理、工場用水の管理など工場の入口と出口を管理する立場となります。工場の円滑な運営や環境保護に対する意識を念頭に置き、業務に取り組んでおります。